
雨が降っていた

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨が降っていた

【コード】

N2369M

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

「会社を辞めた理由はそれだけか」

「会社を辞めた理由はそれだけか」

「はい」

「他に理由があるだろ」

「他にはありません」

「隠さなくてもいい。私にも言えないことか？」

「何も隠していません」

「誰にも言えないことがある。それは分かっている。辞めたことをとやかく言わない。こうして報告に来てくれただけでも上等だと思
う」

「いえ」

「君は狂ったわけではなさそうだ。だから理由がきつとある。私も保証人として聞く権利が少しはある」

「ですから、理由は言いました」

「嘘はいかん」

「嘘じゃありません」

「私には分かっている。君がそんなことで会社を辞めるわけがない。子供のころから見てるんだ。君はそんな人間じゃない。本当のことを私に話してくれないか？ 水臭いじゃないか。そうだろ」

「僕は本当のことを話しています」

「お母さんが泣くよ。私の妹だ。泣かせてはいけない」

「母は泣いていませんでした」

「あきれて涙も出ないのだろう。しかしだ、そんなとぼけた理由では私を騙せない。親は騙せても私は騙されないよ。親に言えない理由があるんだ。そうだろ？」

「ありません」

「強情な子だな。何を隠しているんだ。私だけにそつと教えてくれないか。妹夫婦には黙っておく」

「だから、何も隠していません」

「次、また就職するんだろ？ また妹が保証人になってくれと来るはずだ」

「はい」

「今後のこともある。だから私を納得させてくれないか」

「さっき言った通りです」

「何があつたんだ？」

「それもお話ししました」

「そうじゃなく、本当の理由だよ」

「その朝、起きると…」

「それは何度も聞いた。そうじゃなく、そこに至るまでにいろいろあつたんだろ。会社のことやその他諸々の…」

「だから、朝起きると雨が降っていたんです。雨が降っていたんです」

「言うまで帰さないからね」

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2369m/>

雨が降っていた

2010年10月28日07時38分発行